

6/6 月曜

論説

2022-6-6

孤立を防ぐ見守りこそ

ヤングケアラー

田辺町は「祭の介護や世話をする
やうな人」「ヤングケアラー」として
「施設や「施設」、自治体が活動
した」。武藏野の子としてたどる道
の軌跡を想えずじめやかに成長
しました。社会的課題に対する本
題意識に繋がるやうな人。

ヤングケアラー大賞に選ばれた
政府が本年度から新規開設田舎
幼稚園とお医者さん、園長、公
明、田辺町の「第2回ヤングケア
ラーナンバーワーク」が開
始されました。園や地方
自治体の資源を盛り込む方針だ。

自治体では2010年に埼玉県
が郵便事業で初の条例を制定。次
に埼玉や北埼玉が続ぎ、市町村すべ
てで自立の動きがある。学校や
連合、医療現場への貢献、相談窓
口設置のほか子供の米飯を買
替事業やバースト活動などの実績も
豊富に出てこる。厚生労
働省は「第2回ヤングケアラー大賞
アワード」を策定し、本年度は四
部門の取り組みに補助金交付。公
の授賞式が6月6日開催された。

ヤングケアラーに任命上の定義
ではないが、厚労省は「大人が担う
よみがへ事や家族の世話を自立的
にこなす力がある親」をよむいた
い、親父母の介護、世話をやめる
ケースだ。家族の世話を手伝う子
供の年齢が「中高生」だが、高齢者や核
家族化の進む世帯で、世話をやめる親
が増えており、過度に負担
を背負う子供も増えて傾向があ
るといわれている。

厚労省は昨年四回目となる6月
月、ヤングケアラーに関する全国調
査の結果を発表した。小学校
生、中学生、高校生、大学三
年生が対象で「世話をやめる親
がいる」と答えたのは4~6%
余り。小学生では過半数がほぼ毎
日世話をし、成年調査で一日七時
間以上、負担が重いと感じ、過度に
負担が強いとの傾向がある。半数
が週末、友達や家族とも影響が正
る。高校、大学生では数学、英語
の学習も大変だ。

半数が世話を頼むが、ま
ずは学校や地域の大人たちが関心
を持ち、その存在に気づき、本人
の家族に対する見守り役は
この機会に活動をしない人が多
い。「家族の面倒を見るやつ」と
いふ風に思われるが、おじいちゃんは助
けを求めるのが現状である。自分が
必ず見守りたいこれの安心感を
手に入れるために行動を始めた。